

エコア力通信 2022



森のめぐみの体験学習

エコシステムアカデミー



2022 年度を振り返って、「エコシステムアカデミー」の取り組みについてご紹介いたします。

本年度は、新型コロナウイルス対策を取りつつ活動も行うという新型コロナウイルスとの共存を前提とした活動を行う 1 年となりましたが、環境学習イベント数 27 件、参加者数 904 人(大人:383 人、子ども:521 人)となり、前年に比べイベント数で 10 件、参加者数で約 300 人の増となりました。増加の要因は、昨年までコロナ禍の影響で中止となっていたイベントの再開、三菱製紙および他社従業員研修でのエコシステムアカデミープログラムの利用、新規取り組み(成蹊学園/竹中工務店林業体験会、木場公園での木育プログラム)などが挙げられます。また、周知が進む社会課題 SDGs に対して何かをしたいという個人や家庭、学校や社会の思いが強くなってきていることも関連していると思われます。

地域協働の新たな取り組みとして、西郷村中央公民館サークルとして、「にしごう紙漉き研究会」を立ち上げました。地元有志の方に参加いただき、楽しく一緒に自然や森、紙や環境のことを学習しながら紙漉き(手漉き)技術を身に付けてもらうサークルです。このサークル活動を通じてエコシステムアカデミー活動のサポーターとなってもらうとともに、自らの社会参加の機会にもなっています。

また、エコシステムアカデミーでは社有林での森林生態系の調査を継続して行っており、本年度環境セミナーでは「生物多様性」をテーマとした講演を設定しました。これらは三菱製紙が取り組む TCFD/TNFD と関連する生物多様性保全のための 30by30 に寄与する具体的な活動となります。30by30(自然共生サイト認定取得)の取り組みは 2023 年度のメインテーマの一つとしてより具体的な取り組みとして実施する計画です。

エコシステムアカデミーはこれからも、三菱製紙グループのサステナビリティ推進活動の一つとして持続可能な社会づくりに貢献していきます。

I 体験型森林環境学習

1. 白河地区での取り組み

○第 6 回生長の森植樹

5/28 三菱製紙従業員に加え地元の方々にも参加いただき(総勢 59 名)、120 本のミズナラの苗木を植樹しました。植樹に森のミニツアー、クラフト、森の講演会(講演者:(一社)湯本 森・里研究所 代表理事 星 昇 氏)を加えたプログラムで、参加者の満足度も高く森を知り好きになる機会となりました。



家族で植えました。



みんなで植えました。

○成蹊学園林業体験会

9/17-18 成蹊学園森林体験環境学習(竹中工務店からの依頼)を、参加者 50 名(学生 36 名、学園職員 4 名、竹中工務店 7 名、撮影班 2 名、添乗員 1 名)を対象に実施しました。

「学び・体験し・考え・発表する」ワークショップ形式のプログラムで、参加した学生にとって森を考える機会となりました。1 日目:講義、グループ討議(テーマ「持続可能な森林と人との共存のためにはどうしたらよいのか?」課題抽出と解決提案、発表)

2 日目:講義、林業体験(伐倒作業見学、手鋸体験、自然観察、森林計測体験、製材作業見学)、振り返り(グループ討議・発表)

林業体験では、西白河地方森林組合、みなみ製材所にご協力をいただきました。



伐倒作業見学



製材作業見学



講義・グループ討議

○セカンドスクール

(那須甲子青少年自然の家 教育事業)

西郷村や棚倉町の小学校 7 校の5年生を対象に、「私たちの生活と森林」をテーマとした森林環境学習(講義+紙すき体験)を実施しました。このエコアカのプログラムは、全西郷村小学校の共通授業となっています。

また、にしごう紙漉き研究会、西郷単位制総合大学や白河 OB 会から対応スタッフとしてボランティア参加いただき、地域ぐるみで地域の子どもたちを育成することにもつながりました。

10/17 高野小:児童 11 名 10/19 近津小:児童 18 名 10/25 小田倉小:児童 34 名/34 名、杜川小:児童 17 名

11/10 熊倉小:児童 31 名/30 名、11/15 米小:児童 30 名、羽太小:児童 11 名



高野小学校



近津小学校



杜川小学校



米小学校



小田倉小学校 1組



小田倉小学校 2組



熊倉小学校 1組



熊倉小学校 2組



羽太小学校



世界で 1 枚だけの葉書

○にしごう紙漉き研究会

西郷村文化センター自主サークル(エコシステムアカデミー後援)として「にしごう紙漉き研究会」(メンバー 22 名:村民ボランティア、三菱製紙 OB、エコシステムアカデミー)を立ち上げ、月 1 回の例会(講義+紙漉き実習)、西郷村文化祭やエコアカ活動への参加を通じて、生涯学習・村民間交流に貢献することで三菱製紙の地域との交流を図るとともに、エコアカ活動へのサポーター(協力者)育成を図っています。



紙漉き実習



西郷村文化祭への出展

【営業支援】

○東京都紙商組合友和会研修

三菱王子紙販売からの依頼を受けて、友和会会員会社従業員(入社5年目前後28名+引率者8名(計36名))を対象に、プレスボード工程見学+エコアカ森林環境学習を行いました。



講義



社有林体験

2. 東京地区での取り組み

【墨田区との取り組み】

○すみだ環境フェア

6/25, 6/26 すみだ環境フェア 2022「楽しもう♪来て! 見て! 発見! 私にできるSDGs」に出展しました。一般来場者(こども～おとな)対象に生物多様性と「森のサイクル・紙のサイクル」をテーマにパネル展示およびペーパーバッグ作り、ステージワークショップ(白河だるま de 絵付け体験)を実施。工学院大学学生(エコ推進委員会)12名もスタッフ参加しました。



ペーパーバッグ作り



白河だるま de 絵付け体験

○夏休みすみだ環境プログラム

7/23 夏休みすみだ環境プログラム「森のめぐみと紙すき体験」(小学生親子24組48名参加)にて、講義(森と紙のつながり)と紙すき体験(針葉樹と広葉



親子で紙漉き体験のようす

樹による紙の違いの体験)を実施しました。

【東京都公園協会との取り組み】

○「第57回東京都公園協会賞

2017年より、水元公園ボランティア団体エコシステムアカデミー水元として登録し活動しています。本年、その活動が「第57回東京都公園協会賞(ボランティア・社会貢献活動部門)」奨励賞として表彰されました。

この受賞に関連して、東京都公園協会の専門誌「都市公園」にエコシステムアカデミー水元の活動紹介が掲載されました。また、3/11に、都立公園ボランティア活動報告会にてエコシステムアカデミー水元の活動を発表しました。



東京都公園協会賞奨励賞

○水元公園夏休み自由研究講座

7/30-31「森のめぐみと紙すき体験」をテーマに、小学生親子19組48名を対象として、講義(森と紙のつながり)と紙すき体験(針葉樹と広葉樹による紙の違いの体験)を実施しました。



元気に発表する子どもたち

○都立葛飾総合高校出前授業

10/6 2-3年生20名を対象にした森林環境学習「地球環境と森林」(講義+紙漉き体験)を実施しました。



温暖化の説明を聞く生徒

○水元公園ふれあいフェスティバル

11/3 水元公園ふれあいフェスティバルのクラフト・丸太切り体験コーナーにて、約100名の来場者への対応を担当しました。



クラフト体験作品見本

○水元公園メタセコイアをめぐるガイドツアー

12/4 一般事前申込者 30 名を対象に、紅葉したメタセコイアを中心に水元公園の秋を感じてもらう公園内ツアーのガイドを担当しました。



メタセコイアの木の下で

○木場公園木育プログラム「親子 de 木製コースターづくり」

10/29 都立木場公園との協働木育プログラム「親子 de 木製コースターづくり」(白河社有林の丸太の手鋸体験＋コースター作り)を、親子(7 組x3 回)対象に実施しました。



家族、力を合わせて

【FIC(千葉県森林インストラクター会)との取り組み】

○大人対象／親子対象紙すき講座



大人対象紙漉き講座



親子対象紙すき講座

NPO 法人として森林の魅力を伝える活動をしている FIC との取り組みとして、7/2 に FIC 会員の方(大人)8 名を対象に紙漉き講座を行いました。また、8/6 には FIC 主催の親子(6 組 15 名)対象紙すき講座に機材貸し出しおよびスタッフ参加による協力を行いました。

【大学との取り組み】

○千葉大学環境 ISO 学生委員会森林環境学習

三菱王子紙販売からの依頼を受けて、委員会学生(4 名)対象に本社会議室にて、FSC をテーマにした森林環境学習を行いました。



FSC の講義を聴く学生

また、アクティビティ体験として FSC 用紙を使用した紙バック作りを行

い、この紙バッグ作りを学生が 2023/2/19 開催の千葉大学「Chiba Winter Fes」での「子どもエコ体験企画」の中で行いました。(エコアカより「FSC®エコバッグキット」を協力企業・団体として提供)

○工学院大学環境 ISO 学生委員会森林環境学習

墨田区のエコアカイベントに参加してくれた学生会員メンバーを対象に(4 名)、水元公園を会場に樹木観察・野外活動をテーマにした森林環境学習を行いました。



樹木の説明を聴く学生

3. 関西地区での取り組み

○長岡京市環境フェア

11/27 に長岡京市中央公民館で開催された環境フェアにて、「親子で紙すき体験」を行いました。(参加者:大人 3 名、子ども 9 名)



はじめての紙すき体験

森のはたらきと大切さを知り、木の種類と紙の性質の関係等を体験してもらいました。

4. 八戸・北上地区での取り組み

○プロジェクト D の森 in 北上

2017 年に地元の人たちと植樹したコナラなども育ってききましたが、まだまだクズなど下草を刈る作業が必要です。本年は 8/3 に地元の高



下刈り後のようす(夏)

校生にも参加いただいて育樹(下刈り)体験を計画しましたが、当日荒天となりイベントは中止となりました。

5. インストラクター養成・社員教育

○社員研修(サステナビリティ研修)



グループ討議(発表)



社有林での樹木計測実習

7/14 に三菱製紙管理職(10 名)を対象としたサステナビリティ研修として、エコアカ森林環境学習を行いました。森林や自然の保全の重要性を理解した上で、持続可能な企業とするためのアクションをテーマにグループ討議を行いました。

II 森の調査・研究

1. 社有林のカメラ観察(定点カメラ/トレイルカメラ)

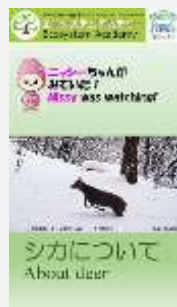
定点カメラ1台とトレイルカメラ2台で社有林の生態系を撮り続けています。本年より、トレイルカメラを動画モードに変えました。結果、雪山でのシカの様子やアトリの群れ、イノシシ、カモシカ、クマなど森に棲む動物(獣)たちの動いている姿を撮影できました。



カモシカ



アトリの群れ



また、これらを三菱製紙 Green Webcastにて動画配信しました。

(三菱製紙 Green Webcast URL)

<https://www.youtube.com/@greenwebcastmitsubishipe4678>

2. 社有林 立木生長量調査 & 伐採地踏査

2010 年から実施している立木生長量調査を本年も実施しました。間伐地(K-1,2)の胸高直径は、未間伐地(M-1,2,3)の樹木より成長している事を確認しました。

また、竹中工務店からの成蹊学園新校舎用アカマツ用材の伐採候補地の踏査を実施しました。



3. 社有林内の土壌動物調査(秋季)

昨年に引き続き、9/27~30 に土壌動物調査を実施。未間伐地エリアB' (移設)、強間伐地エリアE (新設)の計 5 か所調査しました。

結果、明るいエリアEでは数が多く、間伐地エリアCでは種類が多く、逆に暗いエリア B' が数・種類ともうっとも少ない結果となりました。

また、調査エリア全体で自然度の試算した結果、人工林と二次林の中間の位置にあることが判りました。

4. 社有林内の野鳥調査

本年は、3/26、6/18、10/1 の3回実施しました。

また、トレイルカメラにて、アトリ、キジバト、シジュウカラなどが確認されました。

5. 社有林内の放射線量測定

継続して社有林内の放射線量を調査しています。結果、村火・欠入社有林については、安全に活動できると言われている空間線量率毎時 $0.23 \mu\text{Sv/h}$ より低い $0.15 \mu\text{Sv/h}$ 程度以下で推移しています。

また、成蹊学園の林業体験会を開催に際し、先方保護者より放射線の影響懸念が提示され、今まで調査した結果をまとめ回答し、安全性を理解していただきました。

Ⅲ 森の育成・管理・利用

1. 生物多様性保全のための 30by30 の取り組み

三菱製紙は 30by30 アライアンスに参加しており、その一環としてエコアカは白河地区社有林等での体験型森林環境学習を実施しています。また、2023 年度には白河地区社有林等での OECM(自然共生サイト)認証取得に向けた取り組みを計画しています。



2. FSC 年次監査

5/24-25に村火社有林、欠入社有林を現地監査場所として FSC-FM 年次監査が行われました。また、6/22 に(有)幸栄での FSC®認証白河だるま製造工程を現地監査場所として FSC-COC 年次監査が行われました。両 FSC とも認証継続となりました。



欠入社有林現地監査の様子

3. 企業の森

社有林の一部を他社へ貸し出し(契約を取り交わし有料)、その会社の森林保全活動(林業体験等社内イベント、販売ツール等)として利用してもらうとともに、私たちと一緒に豊かな森づくりをするプログラムを提案しています。社有林の新たな有効活用(サステナビリティ推進活動)となることが期待されます。

Ⅳ 環境セミナー

1. 第 12 回環境セミナー

テーマを「持続可能な社会のための生物多様性」として、講演①「生物多様性はなぜ重要か?～人と生き物の関係から考える」宮下 直 氏(東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授) 講演②「環境負荷低減に向けたライオンの取組み」島崎 博子 氏(ライオン株式会社サステナビリティ推進部 主任部員)を本社会場聴講とオンライン聴講のハイブリッド形態で実施しました。



島崎氏 宮下氏
講演後の質疑の様子

生物多様性は、TCFD/TNFD や 30by30 など SDGs 達成に向けた具体的な取り組みにおいて現在注目されているテーマです。今回のセミナーは、聴講いただいた方にとって、生物多様性の意味を知り関心を持つ機会となりました。

Ⅴ その他

1. FSC®商材

○WWF ジャパン/白河だるま総本舗との取り組み (FSC®認証白河だるま)

「まねきネコ科Ⅰ」(左からインドシナトラ、ユキヒョウ、アムールヒョウ)に続き、「まねきネコ科Ⅱ」(左からイリオモテヤマネコ、チーター、ウンピョウ)、「まねきネコ科Ⅲ」(左からクロヒョウ/ライオン/マヌルネコ)を販売しました。



まねきネコ科



まねきネコ科Ⅱ



まねきネコ科Ⅲ

○社有林 FSC®木材の利用

ノベルティ・イベント用として、エコアカカレンダー 2023 (カレンダー:FSC®認証紙ダイヤバルキー FSC®認証-MX 180.2g/m²、台座:村火社有林 FSC®認証木材ヤマザクラ)、野鳥の巣箱(村火社有林 FSC®認証木材アカマツ)を製作しました。



エコアカカレンダー
2023
本社ギャラリー
カレンダー展にて



野鳥の巣箱
プロジェクト D の森
in 北上にて



三菱製紙エコシステムアカデミー
ホームページはこちらから



<https://www.mpm.co.jp/ecosystemacademy/index.html>

三菱製紙 Green Webcast は
こちらから



<https://www.youtube.com/@greenwebcastmitsubishipa4678>

【発 行】 エコシステムアカデミー事務局

長田雅一 濱崎善幸 田村博之

【発行日】 2023 年 5 月